



# 名古屋大学 予防早期医療創成センター 第6回ワークショップ

<http://www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/conference20170123/>



【日時】

【場所】

2017年1月23日（月）10:30～18:00

名古屋大学 東山キャンパス 野依記念学術交流館



主催 名古屋大学予防早期医療創成センター 共催 公益財団法人 日比科学技術振興財団

## 問い合わせ先

名古屋大学 予防早期医療創成センター  
URL <http://www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/>  
〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学  
ナショナルイノベーションコンプレックス (NIC) 5F  
TEL・FAX : (052) 789 - 5499  
E-mail: PME事務室  
[kou-kyoten@adm.nagoya-u.ac.jp](mailto:kou-kyoten@adm.nagoya-u.ac.jp)

## 【アクセス】

地下鉄名城線  
名古屋大学駅  
2番出口より  
徒歩7分

## 【申し込み方法】



ネット申し込み：下記URL 又は左記QRコードにアクセスし、  
必要事項を選択記入の上ご登録下さい。 [www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/entry/](http://www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/entry/)

メールでの申し込み：1)ご所属 2)氏名 3)連絡先 4)昼食要否（軽食実費500円、事前  
申し込みのみ）5)意見交換会(会費制3,000円)の参加希望を下記メールアドレス迄、  
お知らせ下さい。

予防早期医療創成センター 事務室 [kou-kyoten@adm.nagoya-u.ac.jp](mailto:kou-kyoten@adm.nagoya-u.ac.jp)

※ 10:30～、17:35～は、2階カンファレンスホール会場にお集まりください

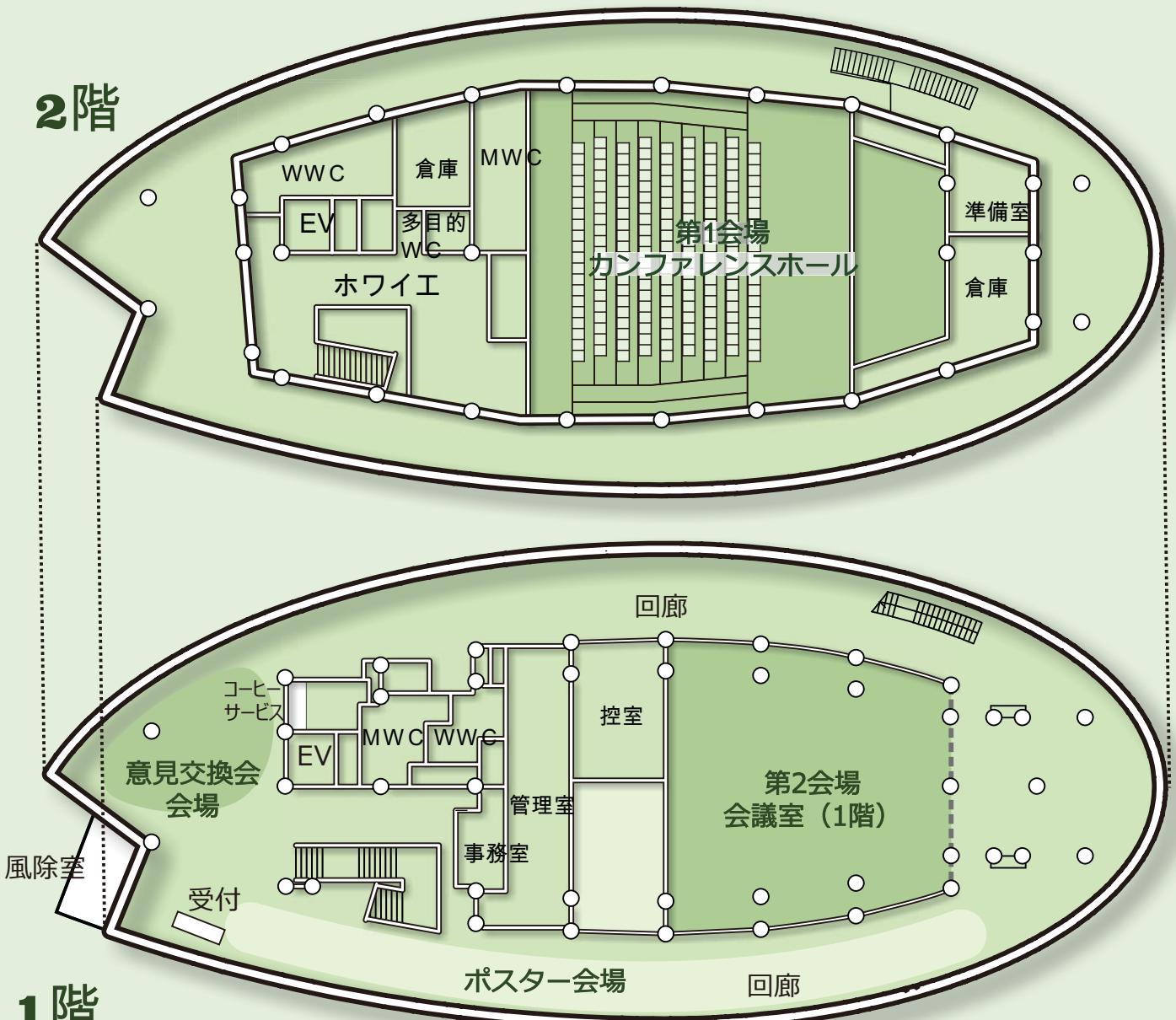
時間	第1会場 カンファレンスホール(2階)	
10:30～	挨拶 門松健治	
10:35	予防早期医療創成センター長 医学系研究科 教授	
10:35～ 11:15	【招待講演】 高齢化と健康に関するWHOワールドレポート～求められるイノベーションと研究・開発の可能性～ WHO健康開発総合研究センター テクニカルオフィサー 茅野 龍馬 氏	
11:20～ 11:50	ポスターセッションに関するショート・トーク	
昼食休憩 ※		
時間	1階 回廊	
12:30～ 13:30	ポスターセッション 於：野依記念学術交流館 1階 回廊	
移動		
時間	第1会場 カンファレンスホール(2階)	第2会場 会議室(1階)
13:30～ 15:30	<b>1-1</b> 予防・健康増進に向けたIoT応用の可能性	<b>2-1</b> ベッドサイド診断の技術と応用
15:40～ 17:50	<b>1-2</b> 社会参加寿命延伸の為の新潮流	<b>2-2</b> 皮膚を科学する
17:55～ 18:00	挨拶 財満 鎮明 名古屋大学副総長、学術研究・産学官連携推進本部長	
18:00～ 19:30	意見交換会 於：野依記念学術交流館 1階	

-1-

- 軽食\*
- 意見交換会の  
御案内
- ・ 昼休憩時に軽食をご用意致します。ご利用下さい。  
【費用】500円
  - ・ また、ワークショップ終了後、1階スペースで、意見交換会を行います。  
皆様のご参加を心よりお待ちしています。  
【時間】18:00～19:30【会費】3,000円
  - ・ 準備の都合上、軽食・意見交換会について事前申し込みをお願いします。  
〆切り 1月19日(木)



野依記念学術交流館



-2-

野依記念学術交流館 外観



カンファレンスホール



1階 回廊



10:35～  
11:15

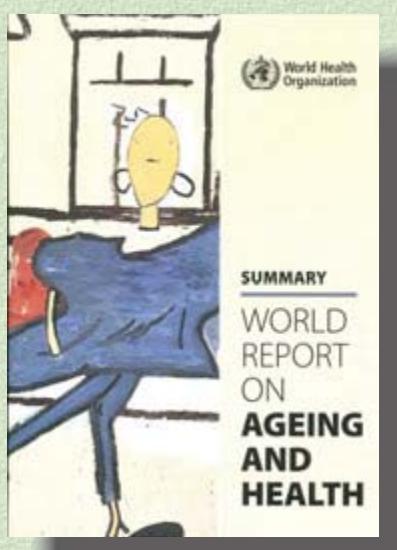
高齢化と健康に関するWHOワールドレポート  
～求められるイノベーションと研究・開発の可能性～

座長 門松 健治 予防早期医療創成センター センター長

WHO健康開発総合研究センター テクニカルオフィサー(健康危機管理)  
医師 茅野龍馬 氏

国際保健は、これまで「感染症との闘い」を大きなテーマとして、ワクチンの普及、エイズ・マラリア・結核対策など、様々な事業を行ってきた。その結果として、乳幼児死亡率、妊産婦死亡率は世界全体で低下し、平均寿命も大きく伸びた。一方で、人口の高齢化や生活習慣病の増加など、これまで先進国だけの問題と考えられていたものが、途上国も含めた世界各国の課題になっている。

こうした状況に鑑み、WHOは2015年、「高齢化と健康に関するワールドレポート」を発行し、世界全体に対して問題提起をするとともに、その解決に向けての提言を行った。本講演では、こうした国際保健の文脈について概説し、今後必要とされる社会変革や研究開発の方向性についての討論の機会とする。

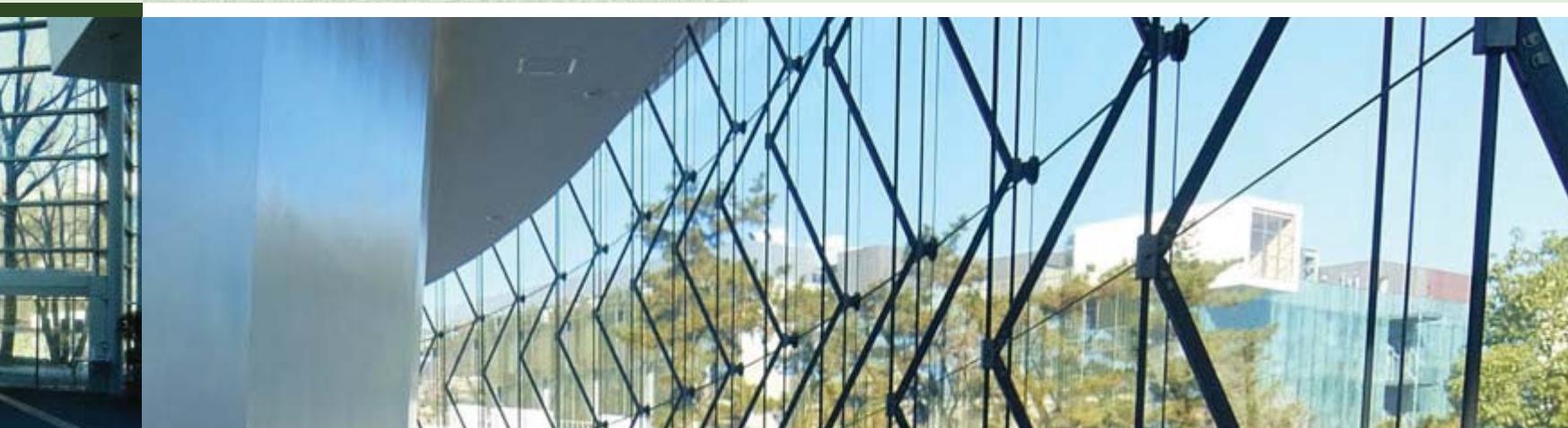


WHOのホームページから、全文(英語)及びサマリー(日本語)を閲覧、ダウンロードできる。

<http://www.who.int/ageing/events/world-report-2015-launch/en/>

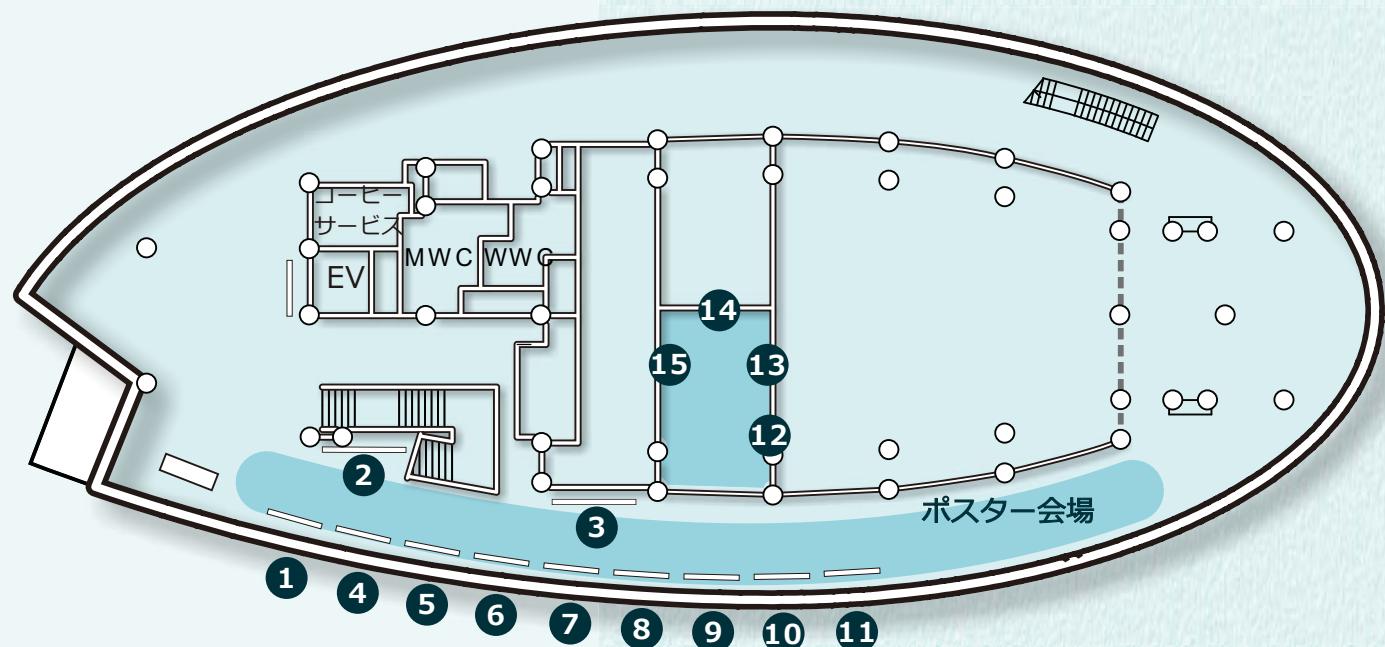


-3-





## ■ ポスターセッションレイアウト（1階回廊）



ポスターセッションは12:30から13:30迄行います。コーヒーサービスも併せてご利用下さい。

## ■ ポスターセッションプログラム

No.	タイトル	発表者
1	予防早期医療創成センターの紹介	名古屋大学予防早期医療創成センター
2	NSWのヘルスケアおよびIoTの取組み	日本システムウエア株式会社
3	日々の情報を活用した生活習慣改善アドバイスの生成	株式会社 エヌ・エイ・シー
4	リアル×バーチャルサポートで健康へナビゲート	(株)WOWOWコミュニケーションズ
5	ヘルスケアの様々な用途に対応したウェアラブルセンサ	TDK株式会社 IoTシステムビジネスユニット



No.	タイトル	発表者
6	皮膚ガス計測による健康管理	株式会社NTTドコモ 先進技術研究所 山田 祐樹、中村 達也、檜山 聰
7	皮膚表面の質量分析法	株式会社 島津製作所
8	ラクオリア創薬の名古屋大学における創薬研究への取り組み	ラクオリア創薬株式会社 取締役 常務執行役員 渡邊修造
9	安全性と高殺菌力を実現する新しい殺菌消毒液の生成装置	日本ガイシ株式会社 新事業企画室 大阪大学大学院 工学研究科 アトミックデザイン研究センター 大阪府立産業技術総合研究所
10	分子マシンを利用した高分子ゲルの高伸張性化および高韌性化	名古屋大学工学研究科物質制御工学専攻 竹岡 敬和、大森 香奈、Abu Bin Imran、関 隆広、劉 暢、眞弓 翔一、伊藤 耕三
11	強力な免疫調整能を有する脂肪由来幹細胞製剤の開発	名古屋大学大学院医学系研究科 病態内科学講座腎臓内科学 堀之内 明日花、丸山 彰一
12	非環状型人工核酸SNA、iL-aTNAの医療応用に向けた展開	名古屋大学工学研究科物質制御工学専攻 村山恵司、神元寛、神谷由紀子、櫻田啓、浅沼浩之
13	三次元筋組織を用いたオンチップ筋萎縮モデルの開発	名古屋大学 大学院 工学研究科 化学・生物工学専攻 清水 一憲、弦間里歩、後藤友規、本多裕之
14	トランスジェニックニワトリによる医薬品タンパク質の生産	名古屋大学 大学院 工学研究科 化学・生物工学専攻 西島謙一 金岡英徳 飯島信司
15	日本人集団での花粉症のゲノムワイド関連解析：J-MICC Study	名古屋大学医学系研究科医療技術学専攻 藤井亮輔、菱田朝陽、Wu Mc、近藤高明、内藤真理子、服部雄太、中朽昌弘、栗木清典、遠藤香、浜島信之、若井建志

## 座長 若林 俊彦 医学系研究科 教授

時間	タイトル	内容
13:30～	息に含まれるアンモニア成分の測定技術と携帯型呼気センサーの開発 株式会社 富士通研究所 デバイス＆マテリアル研究所 デバイスイノベーションプロジェクト 主管研究員 壱井 修	息に含まれるガス成分で体の状態を手軽に調べることで疾病的早期発見をめざした呼気分析が研究されている。今回、生活習慣病、特に肝臓の代謝との関係が強いアンモニアに着目し、他のガスと区別して高感度に測定する技術と携帯型呼気センサーの開発を行った。
14:00～	「肌着を着るだけで健康チェック」 ～着衣型生体センサーを活用した睡眠、眠気の見える化～ パナソニック ソリューションテクノロジー(株) 経営企画部企画課 健康経営支援 サービス担当課長 大山 一朗	健康経営銘柄の選定などの国の施策強化により、企業の従業員に対する健康増進の取組みが活発化している。着衣型生体センサーとICT技術を活用した、着るだけで睡眠や眠気などの生体状態がわかる、新たな健康管理支援サービスを紹介する。
14:30～	「健康経営への挑戦」～健康情報センシングを利活用した健康リスク制御～ 株式会社フジクラ 人事・総務部健康経営推進室 副室長 フジクラ健康保険組合健康推進部長 浅野 健一郎	近年、健康経営の社会実装の動きが進み始め、職域での健康増進および疾病予防の好事例が多く報告されている。今回株式会社フジクラで取り組んでいる「健康情報センシングを利活用した健康リスク制御」の中からポピュレーションアプローチを中心に報告する。
15:00～	IoTによる健康新産業の創成にむけて 名古屋大学 予防早期医療創成センター 特任教授 吉田 安子	名古屋大学予防早期医療創成センターでは、産学官連携により個別化予防の推進に向けた健康増進システムの構築を目指している。経済産業省事業「IoT推進のための新産業モデル創出基盤整備事業」の例などから、コンソーシアムによる健康産業創出の可能性について議論したい。
15:30～	小休止	

-6-



## 座長 平田 仁 予防早期医療創成センター 教授

時間	タイトル	内容
13:30～	POCT分析を目指したペプチド分子ビーコンの開発 名古屋大学 予防早期医療創成センター 教授 本多 裕之	簡便なベッドサイド分析を目指して、分子内に相補配列をもつペプチド分子ビーコンを合成した。分子開閉により、ターゲットの有無をノンラベルかつワンポットで定量することができる。合わせて銀ナノ微粒子を利用したペプチド分子プローブも紹介する。
14:00～	POCT用のマイクロ流体デバイスの開発 北海道大学 工学研究院 応用化学部門 分子機能化学分野 教授 渡慶次 学	我々はPOCT用のマイクロ流体デバイスの開発に取り組んでいる。長さ8.5 mm、幅1 mm、深さ40 μmの流路の中に光硬化性樹脂を利用した抗原-抗体反応場を作製することで、微量・迅速・簡便・高感度なイムノアッセイデバイスを実現した。本シンポジウムでは、デバイスの特徴といくつかの測定例について紹介する。
14:30～	非接触呼吸センシングによる施設介護・在宅医療支援システム コニカミノルタ株式会社 事業開発本部 事業推進部 アシスタントマネジャー 将積 直樹	コニカミノルタでは、昨年4月に介護施設における介護業務全体を効率化するケアサポートソリューションを販売開始した。本システムの概要と、コア技術である非接触呼吸センシング技術を活用し、IoT技術とも連携した次世代在宅医療支援システムについて説明する。
15:00～	地域包括ケアの完成に向けてベッドサイド診断の役割と期待 藤田保健衛生大学 未来医療戦略研究講座 教授 杉浦 立尚	2025年に高齢者人口は人口の30%に相当する3500万人と、日本超高齢化社会はピークを迎える。地域包括ケアシステムの完成は急務であり、その重要な鍵のひとつが在宅におけるベッドサイド診断であることは間違いない。総論から各論までとりまとめてお話をしたい。
15:30～	小休止	

-7-



## 座長 吉田 安子 予防早期医療創成センター 特任教授

時間	タイトル	内容
15:40～	医食イノベーションが創る喜びのヘルスケア～家族みんなで楽しむ幸せ食～ (株)竹屋旅館（ホテルクエスト清水）代表取締役 竹内 佑騎	当社が運営する「ホテルクエスト清水」では、糖尿病患者も家族と共に楽しめるフルコースを提供し、誰もが楽しい時間を過ごせることを大切にしている。レシピ開発の経緯、障壁をどう乗り越えたか等「メディカルシェフ」の挑戦をお話する。
16:10～	セルフ健康チェック利用者38万人の軌跡 ケアプロ株式会社 代表取締役 川添 高志	“ちょっと立ち寄り、ちゃんと健康”をコンセプトに、セルフ健康チェックを駅やデパート、パチンコ店などで展開し、累計38万人の利用者の生活習慣病予防に取り組んできた軌跡と、インドへの展開を含めた今後の戦略を紹介する。
16:40～	新聞販売業から「ホスピタリティ流通業」を目指して アウンズ・ヤナギハラ 代表取締役 柳原 一貴	超高齢社会が現実となった今、巷では日常様々な出来事が起きている。認知症で自宅がわからなくなってしまった徘徊老人、室内で倒れ何日も放置された高齢女性、電球の交換も難しい高齢者の日常生活等。このような現状に、誰がどのように対応すればよいか？高齢者にとって毎日自分を訪ねて来てくれる存在は、私たち新聞販売店しかない。そのため当社は単なる新聞販売業から脱皮し安心して暮らせる街づくりの担い手となるべく「ホスピタリティ流通業」をスローガンとして企業活動を進めている。
17:10～	ウーバーICTシステムで運行している、日本初の京丹後・丹後町での「ささえ合い交通」とは NPO法人 気張る！ふるさと丹後町 専務理事 東 和彦 (運行管理者兼務)	丹後町では、日本初のICTを活用したタクシーの公共交通空白地帯での有償運送（ささえ合い交通）を5月26日からスタートさせている。総実車走行距離は半年で3416kmとなり、利用者のドライバーへの評価も高い結果となっている。観光客だけでなく地元の高齢者に対して、買い物や通院などの足となり、外出機会を提供している。
17:55～ 18:00	挨拶 財満 鎮明 副総長、学術研究・産学官連携推進本部長	

-8-



## 座長 澤田 誠 環境医学研究所 教授

時間	タイトル	内容
15:40～	皮膚表面の質量分析法 島津製作所 田中耕一記念質量分析研究所 副所長 岩本 慎一	試料を直接測定する質量分析が注目されている。我々はその代替法として、指先の分泌物を金属基板に転写し、その基板をMALDI-TOFMSで分析する方法を考え、複数の被験者に対して実施した。本講演では、この方法と実験結果について紹介する。
16:10～	ターゲット分子の皮膚への浸透を可視化する 名古屋大学大学院生命農学研究科 森林化学研究分野 教授 福島 和彦	飛行時間型2次イオン質量分析（TOF-SIMSは、特定分子の細胞レベルでの分布の可視化を可能とする。ここでは、本法の原理を解説し、皮膚など生体試料への適用例を紹介する。また、最近開発に成功したクライオTOF-SIMSを用いた水溶性成分の分布の可視化についても述べる。
16:40～	皮膚のよろこび医薬品外用剤の製剤設計—局所適用の軟膏剤／クリーム剤／ローション剤の開発— マルホ株式会社 京都R&Dセンター 医薬開発研究所 セクションチーフ 堀沢 栄次郎	近年、皮膚のかゆみや痛み、アトピー性皮膚炎などの皮膚疾患の増加に伴って、皮膚を直接治療する医薬品外用剤のニーズが高まっている。そこで、製剤開発においては治療に有効な薬物の効果を最大化し、さらに皮膚に適用し易くした付加価値の高い医薬品外用剤が求められている。ここに代表的な外用剤の製剤設計について、その概略をご紹介する。
17:10～	注射に代わる痛みのない非侵襲性経皮ワクチンの創製—花粉症の減感作治療を例として— 九州大学工学研究院次世代経皮吸収研究センター教授 後藤 雅宏	ワクチンなどのタンパク質製剤は、体内で分解されやすいためこれまで注射でしか投与できなかった。我々は、皮膚の下部組織に免疫を司る豊富な樹状細胞が存在することを利用するため、皮膚浸透に優れた油状可溶化型のナノ粒子を開発した。その花粉症治療への応用について紹介する。
	小休止・第1会場へ移動	

-9-

